

おわりに

「ある社会がその構成員のいくらかの人々を閉め出すような場合、それは弱くもろい社会である」。

これは、1979年の国際障害者年行動計画の一文です。この歴史的課題の解決がなされないまま、30余年を経た今、社会保障・社会福祉をはじめとする制度のほころびが各方面から指摘され、「無縁社会」と称されるまでになっています。

「推進会議」と「部会」は、「障害の有無にかかわらず国民が分け隔てられることのない共生社会」の実現とそのための制度改革を目指しています。それは、とりもなおさず、「弱くもろい社会」から、誰もが排除されることなく全ての人々が社会的に包摂される社会づくりに寄与するものであると確信しています。

地震と津波、原発事故によって未曾有の被害がもたらされた東日本大震災は、障害者を含む被災地の人たちにきわめて大きな困難を与えています。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

今、日本中が協力して災害からの新生・復興をすすめ、すべての人が尊重され、安心して暮らせる社会を作ろうとしています。本提言がめざす共生社会は、この新生・復興の日本社会の不可欠の一部となると信じます。障害者が暮らしやすい社会はすべての人が暮らしやすい社会でもあります。

そうした点からも、政府が本提言を受け止め、障害者総合福祉法が制定・実施されることを心より願うものです。